

# 平成26年度 財政状況資料集

## 総括表（市町村）

都道府県名	茨城県		市町村類型	Ⅲ-1	指定団体等の指定状況		区分		平成26年度(千円)	平成25年度(千円)	区分		平成26年度(千円・%)	平成25年度(千円・%)
					財政健全化等	×	歳入総額	37,783,870			37,115,173	実質収支比率		
市町村名	取手市		地方交付税種地	2-6	財源超過	×	歳出総額	36,918,471	36,193,679	経常収支比率	91.8	90.6	(102.2)	(102.6)
					首都	○	歳入歳出差引	865,399	921,494	(※1)				
					近畿	×	翌年度に繰越すべき財源	192,918	77,704	標準財政規模	22,295,782	22,271,453		
					中部	×	実質収支	672,481	843,790	財政力指数	0.78	0.80		
人口	22年国調(人)	109,651	産業構造(※5)		過疎	×	単年度収支	-171,309	-498,333	公債費負担比率	17.4	17.7		
	17年国調(人)	111,327			山振	×	積立金	422,390	678,933	健全化判断比率				
	増減率(%)	-1.5			低開発	×	積立金取崩し額	151,488	29,632	実質赤字比率	-	-		
住民基本台帳人口	27.01.01(人)	109,348	第1次	22年国調	17年国調	低開発	×	積立金取崩し額	151,488	29,632	連結実質赤字比率	-	-	
	うち日本人(人)	107,929		886	1,089	指数表選定	○	実質単年度収支	99,593	150,968	実質公債費比率	9.1	9.9	
	26.01.01(人)	109,595	第2次	1.8	2.0			基準財政収入額	12,009,249	11,994,002	資金不足比率(※4)			
	うち日本人(人)	108,302		11,317	13,446			基準財政需要額	15,729,459	15,238,947				
	増減率(%)	-0.2	第3次	23.6	24.9			標準税収入額等	15,436,159	15,434,821				
	うち日本人(%)	-0.3		35,762	38,440			経常経費充当一般財源等	20,553,196	20,186,818				
面積(km <sup>2</sup> )	69.94		74.6	71.1			歳入一般財源等	25,046,671	25,502,915					
人口密度(人/km <sup>2</sup> )	1,568													
世帯数(世帯)	42,614													
職員の状況														
特別職等	区分	定数	1人あたり平均給料月額(百円)	一般職員等(※6)	区分	職員数(人)	給料月額(百円)	1人あたり平均給料月額(百円)	地方債現在高	43,669,545	42,608,947			
	市区町村長	1	8,760		一般職員	753	2,507,490	3,330	うちの公的資金	30,804,800	29,658,417			
	副市区町村長	1	7,180		うち消防職員	162	557,928	3,444	債務負担行為額(支出予定額)	2,731,592	2,782,827			
	教育長	1	6,580		うち技能労務職員	41	135,464	3,304	収益事業収入	20,000	10,000			
	議会議長	1	4,940		教育公務員	5	14,605	2,921	土地開発基金現在高	1,672,942	1,672,831			
	議会副議長	1	4,440		臨時職員	-	-	-	財政調整基金	2,984,759	2,713,857			
	議会議員	24	4,110		合計	758	2,522,095	3,327	積立金現在高	1,285,138	1,244,897			
					ラスパイレス指数					減債基金	1,177,899	1,098,081		
										その他特定目的基金				

一般会計等の一覧 項番	会計名	事業会計の一覧 項番	会計名	公営企業(法適)の一覧 項番	会計名	公営企業(法非適)の一覧 項番	会計名	関係する一部事務組合等一覧 項番	組合等名	地方公社・第三セクター等一覧 項番	団体名	(※3)
(1)	一般会計	(5)	取手市国民健康保険事業特別会計					(10)	茨城県市町村総合事務組合(一般会計)	(20)	取手市土地開発公社	○
(2)	取手市取手駅西口都市整備事業特別会計	(6)	取手市介護保険特別会計					(11)	茨城県市町村総合事務組合(県民交通災害共済事業特別会計)	(21)	取手市健康福祉医療事業団	
(3)	取手市用地先行取得事業特別会計	(7)	取手市後期高齢者医療特別会計					(12)	茨城租税債権管理機構(一般会計)	(22)	取手市文化事業団	
(4)	取手市地方公平委員会特別会計	(8)	取手市介護サービス特別会計					(13)	茨城県後期高齢者医療広域連合(一般会計)	(23)	取手市農業公社	
		(9)	取手市競輪事業特別会計					(14)	茨城県後期高齢者医療広域連合(後期高齢医療特別会計)			
								(15)	茨城県南水道企業団(水道事業会計)			
								(16)	龍ヶ崎地方衛生組合(一般会計)			
								(17)	取手市外2市火葬場組合(一般会計)			
								(18)	常総地方広域市町村圏事務組合(一般会計)			
								(19)	取手市地方広域下水道組合(一般会計)			

(注釈) ※1: 経常収支比率の( )内の数値は、「減収補償(特例分)」及び「臨時財政対策債」を除いて算出したものである。  
 ※2: 各会計の一覧は主な会計(10会計まで)を記載している。  
 ※3: 地方公共団体が損失補填等を行っている出資法人で、健全化法の算出対象となっている団体については、「地方公社・第三セクター等」の団体名に○印を付与している。  
 ※4: 資金不足比率欄には、資金が不足している会計のみ記載している。  
 ※5: 産業構造の比率は、分母を就業人口総数とし、平成22年国調は分類不能の産業を除き、平成17年国調は分類不能の産業を含んでいる。  
 ※6: 個人情報保護の観点から、対象となる職員数が1人又は2人の場合は、「給料月額(百円)」と「1人あたり給料月額(百円)」を「アスタリスク(\*)」としている。(その他、数値のない欄については、すべてハイフン(-)としている)。

(1) 普通会計の状況 (市町村)

歳入の状況 (単位 千円・%)				地方税の状況 (単位 千円・%)				歳出の状況 (単位 千円・%)					
区分	決算額	構成比	経常一般財源等	構成比	区分	収入済額	構成比	超過課税分	区分	決算額 (A)	構成比	(A)のうち普通建設事業費	(A)のうち充当一般財源等
地方税	14,592,421	38.6	13,700,781	68.1	普通税	13,700,781	93.9	296,707	議会費	276,769	0.7	-	276,667
地方譲与税	306,194	0.8	306,194	1.5	法定普通税	13,700,781	93.9	296,707	総務費	4,719,230	12.8	562,310	3,909,338
利子割交付金	25,555	0.1	25,555	0.1	市町村民税	7,715,978	52.9	296,707	民生費	13,079,383	35.4	1,470,418	6,037,774
配当割交付金	101,321	0.3	101,321	0.5	個人均等割	182,165	1.2	-	衛生費	1,875,690	5.1	23,424	1,715,478
株式等譲渡所得割交付金	59,751	0.2	59,751	0.3	所得割	5,504,766	37.7	-	労働費	111,308	0.3	14,979	56,041
地方消費税交付金	1,074,119	2.8	1,074,119	5.3	法人均等割	208,972	1.4	-	農林水産業費	220,627	0.6	37,559	188,159
ゴルフ場利用税交付金	60,546	0.2	60,546	0.3	法人税割	1,820,075	12.5	296,707	商工費	344,935	0.9	1,000	307,140
特別地方消費税交付金	-	-	-	-	固定資産税	5,200,227	35.6	-	土木費	5,933,556	16.1	2,526,906	3,203,241
自動車取得税交付金	34,694	0.1	34,694	0.2	うち純固定資産税	5,193,480	35.6	-	消防費	1,671,205	4.5	195,760	1,489,620
軽油引取税交付金	-	-	-	-	軽自動車税	151,008	1.0	-	教育費	4,298,971	11.6	1,270,539	2,638,856
地方特例交付金	57,015	0.2	57,015	0.3	市町村たばこ税	633,568	4.3	-	災害復旧費	-	-	-	-
地方交付税	5,046,461	13.4	4,595,483	22.8	鉱産税	-	-	-	公債費	4,386,797	11.9	-	4,359,062
普通交付税	4,595,483	12.2	4,595,483	22.8	特別土地保有税	-	-	-	諸支出費	-	-	-	-
特別交付税	426,156	1.1	-	-	法定外普通税	-	-	-	前年度繰上充用金	-	-	-	-
震災復興特別交付税	24,822	0.1	-	-	目的税	891,640	6.1	-	歳出合計	36,918,471	100.0	6,102,895	24,181,376
(一般財源計)	21,358,077	56.5	20,015,459	99.5	法定目的税	891,640	6.1	-					
交通安全対策特別交付金	13,362	0.0	13,362	0.1	入湯税	-	-	-					
分担金・負担金	316,020	0.8	-	-	事業所税	-	-	-					
使用料	360,342	1.0	49,846	0.2	都市計画税	891,640	6.1	-					
手数料	79,332	0.2	-	-	水利地益税等	-	-	-					
国庫支出金	6,054,594	16.0	-	-	法定外目的税	-	-	-					
国有提供交付金(特別区財調交付金)	-	-	-	-	旧法による税	-	-	-					
都道府県支出金	1,932,525	5.1	-	-	合計	14,592,421	100.0	296,707					
財産収入	55,441	0.1	34,977	0.2									
寄附金	10,757	0.0	-	-									
繰入金	414,387	1.1	-	-									
繰越金	921,494	2.4	-	-									
諸収入	1,344,039	3.6	567	0.0									
地方債	4,923,500	13.0	-	-									
うち減収補填債(特例分)	-	-	-	-									
うち臨時財政対策債	2,264,100	6.0	-	-									
歳入合計	37,783,870	100.0	20,114,211	100.0									

区分	平成26年度	平成25年度
徴収率 現・計 (%)	98.5	98.5
合計	98.5	90.7
市町村民税	98.6	92.4
純固定資産税	98.3	87.9

区分	平成26年度	平成25年度
公営事業等への繰出	4,538,585	671,219
国民健康保険事業会計の状況	2,038,984	255

区分	平成26年度	平成25年度
合計	4,538,585	671,219
下水道	1,690,000	571,247
加入世帯数(世帯)	-	19,639
被保険者数(人)	-	32,732
交通	-	93
国民健康保険	809,601	79
その他	2,038,984	1人当り

区分	決算額	構成比	充当一般財源等	経常経費充当一般財源等	経常収支比率
義務的経費計	18,365,259	49.7	13,042,824	12,744,514	57.0
内訳					
人件費	6,918,719	18.7	6,373,159	6,193,502	27.7
うち職員給	4,581,424	12.4	4,053,940	-	-
扶助費	7,059,752	19.1	2,310,612	2,191,959	9.8
公債費	4,386,788	11.9	4,359,053	4,359,053	19.5
元利償還金	4,385,554	11.9	4,357,819	4,357,819	19.5
うち元金	3,862,902	10.5	3,842,837	3,842,837	17.2
うち利子	522,652	1.4	514,982	514,982	2.3
一時借入金利子	1,234	0.0	1,234	1,234	0.0
その他の経費	12,450,317	33.7	10,283,485	7,808,682	34.9
物件費	4,415,413	12.0	3,534,904	2,870,905	12.8
維持補修費	106,236	0.3	94,677	94,374	0.4
補助費等	1,946,246	5.3	1,860,997	1,221,413	5.5
うち一部事務組合負担金	905,132	2.5	905,132	816,594	3.6
繰出金	4,538,585	12.3	4,075,512	3,621,990	16.2
積立金	718,477	1.9	706,795	-	-
投資・出資金・貸付金	725,360	2.0	10,600	-	-
前年度繰上充用金	-	-	-	-	-
投資的経費計	6,102,895	16.5	855,067	-	-
うち人件費	435,781	1.2	435,781	-	-
普通建設事業費	6,102,895	16.5	855,067	-	-
うち補助	3,998,466	10.8	43,429	-	-
うち単独	2,089,513	5.7	798,294	-	-
災害復旧事業費	-	-	-	-	-
失業対策事業費	-	-	-	-	-
歳出合計	36,918,471	100.0	24,181,376	-	-

(注釈)  
 普通建設事業費の補助事業費には受託事業費のうちの補助事業費を含み、  
 単独事業費には同級他団体施行事業負担金及び受託事業費のうちの単独事業費を含む。

(2)各会計、関係団体の財政状況及び健全化判断比率（市町村）

平成26年度 茨城県取手市

一般会計等の財政状況(単位:百万円)

会計名	歳入	歳出	形式収支	実質収支	他会計等からの繰入金	地方債現在高	備考
1 一般会計	36,538	35,751	787	645	514	39,648	
2 取手市取手駅西口都市整備事業特別会計	1,880	1,802	78	28	492	3,822	
3 取手市用地先行取得事業特別会計	117	117	-	-	117	439	
4 取手市地方公平委員会特別会計	1	1	0	0	-	-	
5							
6							
7							
8							
9							
10							
11							
12							
13							
14							
15							
16							
17							
18							
19							
20							
21							
22							
23							
24							
25							
26							
27							
28							
29							
30							
31							
32							
33							
34							
35							
36							
37							
38							
39							
40							
41							
42							
43							
44							
45							
46							
47							
48							
49							
50							
51							
52							
53							
54							
55							
56							
57							
58							
59							
60							
61							
62							
63							
64							
65							
66							
67							
68							
69							
70							
71							
72							
73							
74							
75							
76							
77							
78							
79							
80							
81							
82							
83							
84							
85							
86							
87							
88							
89							
90							
91							
92							
93							
94							
95							
96							
97							
98							
99							
100							
101							
102							
103							
104							
105							
106							
107							
108							
109							
110							
111							
112							
113							
114							
115							
116							
117							
118							
119							
120							
121							
122							
123							
124							
125							
126							
127							
128							
129							
130							
131							
132							
133							
134							
135							
136							
137							
138							
139							
140							
141							
142							
143							
144							
145							
146							
147							
148							
149							
150							
151							
152							
153							
154							
155							
156							
157							
158							
159							
160							
161							
162							
163							
164							
165							
166							
167							
168							
169							
170							
171							
172							
173							
174							
175							
176							
177							
178							
179							
180							
181							
182							
183							
184							
185							
186							
187							
188							
189							
190							
191							
192							
193							
194							
195							
196							
197							
198							
199							
200							
201							
202							
203							
204							
205							
206							
207							
208							
209							
210							
211							
212							
213							
214							
215							
216							
217							
218							
219							
220							
221							
222							
223							
224							
225							
226							
227							
228							
229							
230							
231							
232							
233							
234							
235							
236							
237							
238							
239							
240							
241							
242							
243							
244							
245							
246							
247							
248							
249							
250							
251							
252							
253							
254							
255							
256							
257							
258							
259							
260							
261							
262							
263							
264							
265							
266							
267							
268							
269							
270							
271							
272							
273							
274							
275							
276							
277							
278							
279							
280							
281							
282							
283							
284							
285							
286							
287							
288							
289							
290							
291							
292							
293							
294							
295							

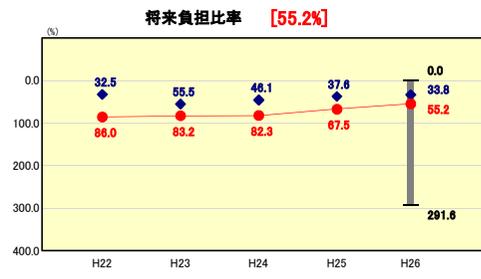
### (3) 市町村財政比較分析表(普通会計決算)

人口	109,348	人(H27.1.1現在)	-	%
うち日本人	107,929	人(H27.1.1現在)	-	%
面積	69.94	km <sup>2</sup>	9.1	%
歳入総額	37,783,870	千円	55.2	%
歳出総額	36,918,471	千円		
実質収支	672,481	千円		
標準財政規模	22,295,782	千円		
地方債現在高	43,669,545	千円		
実質赤字比率	-	%		
連結実質赤字比率	-	%		
実質公債費比率	9.1	%		
将来負担比率	55.2	%		
市町村類型	H22 Ⅲ-3 H23 Ⅲ-1 H24 Ⅲ-1			
(年度毎)	H25 Ⅲ-1 H26 Ⅲ-1			



※市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。  
 ※平成27年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率及び将来負担比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。  
 ※充当可能財源等が将来負担額を上回っている団体については、将来負担比率のグラフを表記しない。  
 ※「人件費・物件費等の状況」の決算額は、人件費、物件費及び維持補修費の合計である。ただし、人件費には事業費支弁人件費を含み、退職金は含まない。

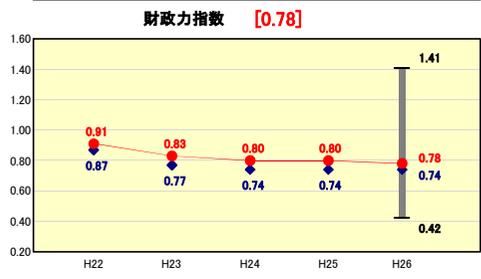
#### 将来負担の状況



類似団体内順位 61/87 全国平均 45.8 茨城県平均 37.5

**将来負担比率の分析欄**  
 類似団体平均を上回っている状況が続いているが、対前年度比較では12.3ポイント比率が減少した。  
 将来負担額のうち地方債残高は増となっているものの、組合等負担見込額及び退職手当負担見込額が減、将来負担額から差し引くことのできる充当可能財源等も増となったため、分子となる将来負担額合計が対前年度比較で24億2千万円の減(△19.10%)となったことが、将来負担比率を大幅に引き下げた要因である。  
 今後も公債費等の義務的経費の削減を中心とする行政改革を進め、後世への負担を少しでも軽減するよう、新規事業の実施等に係る総点検を実施し、地方債発行の抑制など、地方債現在高の急激な上昇を抑制し、財政の健全化に努める。

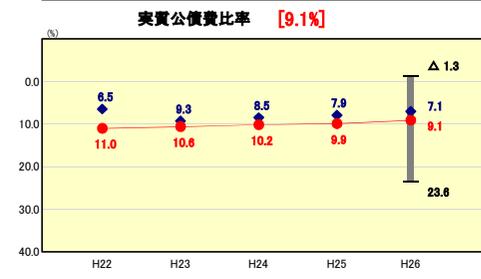
#### 財政力



類似団体内順位 36/87 全国平均 0.49 茨城県平均 0.70

**財政力指数の分析欄**  
 類似団体平均を若干上回っている状況ではあるが、平成20年秋以降の世界的な金融危機や東日本大震災、欧州危機等による景気の悪化から、市内大手企業の収益減に伴う法人市民税の減収などの影響により、近年は微減の状況が続いており、平成22年度からの4年間で0.13ポイントの減となっている。世界的な金融危機や東日本大震災、欧州危機等は、我が国の経済や地方公共団体にも長期にわたる影響を及ぼしているが、為替水準の円安調整などの経済政策の展開により市内大手企業の収益は改善しつつある。しかし、税率の改正などもあり、今後も法人市民税に注視する必要がある。また、個人市民税についても生産年齢人口の減少により大幅な減収が危惧される。本市としては、平成21年度に「取手市財政構造改革アクションプラン」、平成24年度に「取手市行政経営改革プラン」を策定し、収納率の向上、受益者負担の適正化、市有財産の処分等により歳入額を確保するとともに、さらなる歳出額の抑制に努め、収支均衡型の財政構造への転換を図り、持続可能な財政構造の構築に努める。

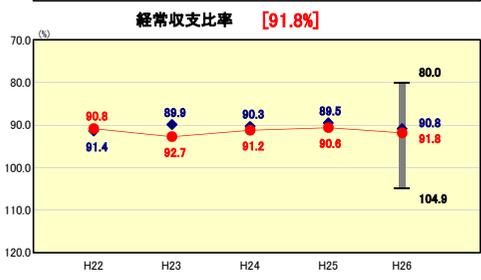
#### 公債費負担の状況



類似団体内順位 56/87 全国平均 8.0 茨城県平均 8.0

**実質公債費比率の分析欄**  
 類似団体平均を上回っている状態が続いているが、前年度比較では0.8ポイント比率が減少した。  
 分子の、公営企業債償還財源に係る繰入金が準公営企業債の償還終了により皆減、一部事務組合への負担金が減となったこと、分子分母から差し引く災害復旧費等にかかる基準財政需要額が増となったことにより、分子が対前年度比較で5億1千万円の減(△26.80%)、分母が2億円の減(△1.05%)となり、分子の減が分母の減を上回ったことが、実質公債費比率を引き下げた要因である。  
 今後も適正な事業の選択・実施による市債発行、償還年限の見直し等を行い、公債費の減額及び償還金の平準化を図り、実質公債費比率の急激な上昇を抑える。

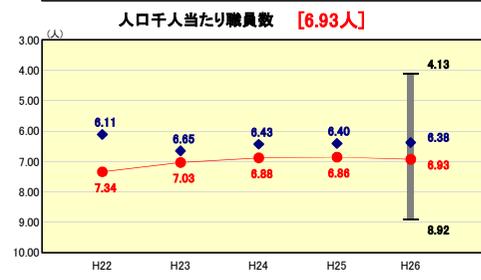
#### 財政構造の弾力性



類似団体内順位 50/87 全国平均 91.3 茨城県平均 88.7

**経常収支比率の分析欄**  
 前年度と比較して1.2ポイント増、近年は90~92%前後で推移しており、類似団体平均を1.0ポイント上回っている。市税102百万円、臨時財政対策債341百万円の減となったものの、普通交付税364百万円、地方消費税交付金212百万円の増などにより、分母である経常一般財源が94百万円の増となった。物件費、扶助費、補助費等の増により分子である経常経費充当一般財源総額も366百万円の増となり、分子の増の割合が大きいため比率を押し上げた。  
 今後も、人件費の抑制と併せて、内部事務経費の徹底した削減や、事務事業の見直しと再構築、施設の統廃合、一部事務組合・第三セクター等の組織の見直し、指定管理者制度の活用など、歳出の抜本的な見直しに努め、継続して行政改革を実施していく。

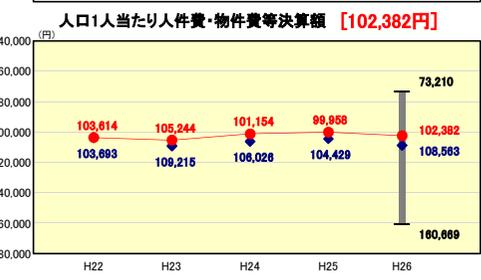
#### 定員管理の状況



類似団体内順位 56/87 全国平均 6.96 茨城県平均 6.73

**人口千人当たり職員数の分析欄**  
 近年、新規採用の抑制等により、職員数は常に前年度と比較して減少であったが、平成26年度は前年度と比較して6人の増となった。これは、臨床心理士等の専門職の採用を行ったこと、翌年度に消防職の退職が多く見込まれるため、消防職員の新規採用を行ったことによる。  
 相対的に全国平均は下回っているものの、茨城県及び類似団体平均を若干上回っている。これは、消防業務を市直営で行っていることや旧藤代町との合併等が影響していると思われる。  
 今後も、組織や事務事業の見直しに併せて計画的な定員管理の中で職員数の適正化を図る。

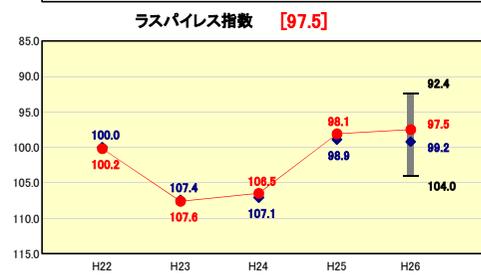
#### 人件費・物件費等の状況



類似団体内順位 34/87 全国平均 119,984 茨城県平均 110,182

**人口1人当たり人件費・物件費等決算額の分析欄**  
 平成22年度の決算額は、類似団体平均とほぼ同水準であったが、平成23年度以降、徐々に類似団体平均を下回り、平成26年度決算は、全国平均、茨城県平均、類似団体平均と比較して大きく下回る数値となった。  
 これは、「取手市財政構造改革アクションプラン」及び「取手市行政経営改革プラン」の取り組みによる人件費の抑制と内部事務管理経費等の削減により効果が現れたものと思われる。  
 今後も、定年退職者等の人員補充は実施するものの、適正な定員管理を図り人件費の抑制に努める。

#### 給与水準 (国との比較)



類似団体内順位 19/87 全国市平均 98.7 全国町村平均 95.8

**ラスパイレス指数の分析欄**  
 全国市平均及び類似団体と比較してもラスパイレス指数は下回っている。  
 これは、ラスパイレス指数の高い職員の退職や昇格試験の実施などにより指数が減少したのと思われる。  
 また、地域手当についても、人事院では15%支給地域に指定されているものの抑制(平成25年度4%、26年度5%で支給)して支給している。  
 今後も人事院勧告を準拠し、給与の適正化に努める。

# (4)-1 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成26年度

茨城県取手市

## 経常収支比率の分析

人口	109,348	人(H27.1.1現在)	実質赤字比率	-	%
うち日本人	107,929	人(H27.1.1現在)	連結実質赤字比率	-	%
面積	69.94	km <sup>2</sup>	実質公債費比率	9.1	%
歳入総額	37,783,870	千円	将来負担比率	55.2	%
歳出総額	36,918,471	千円	市町村類型	H22 Ⅲ-9 H23 Ⅲ-1 H24 Ⅲ-1	
実質収支	672,481	千円	(年度毎)	H25 Ⅲ-1 H26 Ⅲ-1	
標準財政規模	22,295,782	千円			
地方債現在高	43,669,545	千円			

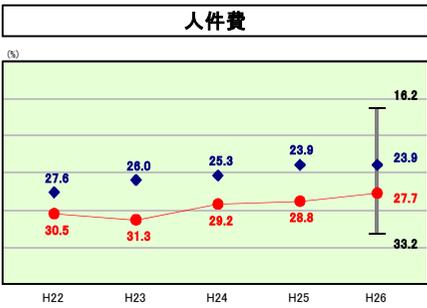


※ 市町村類型とは、人口および産業構造等により全国の市町村を35のグループに分類したものである。当該団体と同じグループに属する団体を類似団体と言う。



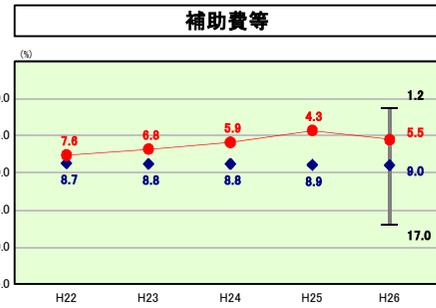
#### 物件費の分析欄

平成26年度決算は前年度と比較して0.9ポイントの増となったが、これは、平成26年4月からの消費税率の引き上げ(5%→8%)の影響によるものと思われる。類似団体平均、全国平均、県平均とも増加している。類似団体と比較すると平均を大きく下回っており、過去の5年間の推移をみてもほぼ同水準にある。「取手市財政構造改革アクションプラン」及び「取手市行政経営改革プラン」の取り組みにより内部事務管理経費等の見直し等による削減効果が現れているためと思われる。今後も、旅費や需用費、備品購入費、委託料など継続的に精査・見直しを図っていく。



#### 人件費の分析欄

全国平均及び類似団体平均と比較すると高い割合になっている。取手市は昭和40年、50年代の人口急増期に公立保育所の新設等による職員の採用を行った。そのため、高齢職員の占める割合が類似団体等よりも多くなっているものと思われる。人件費も高くなっている。しかしながら、「取手市財政構造改革アクションプラン」及び「取手市行政経営改革プラン」の取り組みにより人件費の抑制が図られ、平成22年度からの4年間で2.8ポイント改善している。今後も組織・事務事業の見直しを実施するとともに適正な定員管理を図る。



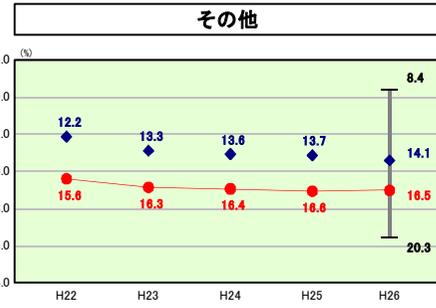
#### 補助費等の分析欄

類似団体平均を継続的に大きく下回って推移しており、減少傾向で推移していたが、平成26年度は、対前年度比較で1.2ポイントの増加になった。これは、市から負担金を支出している一部事務組合、常総広域市町村圏事務組合の経常一般財源が増加した影響等によるものである。また補助金については、平成21年度に10%のマインスイーリングを実施し、平成22年度においては公募制補助金を導入し、削減に努めている。今後も引き続き適正な補助金の交付を行い、公平性・公益性の確保に努めていく。一部事務組合についても、ゴミ焼却施設の建設により常総広域市町村圏事務組合への負担金の増加が見込まれるため、維持管理経費の削減について働きかけるなど負担金の抑制を図っていく。



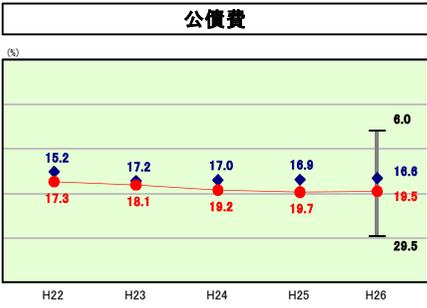
#### 扶助費の分析欄

茨城県平均は若干上回っているものの、全国平均や類似団体平均と比較すると低い割合を維持している。しかし、全国的に高齢化社会を迎えているなかで、本市においても例外ではなく社会保障費にかかる割合は今後年々増加が予測される。特に生活保護費、障害者自立支援給付費にかかる割合が増らんできており、経常収支比率を押し上げる主因となっていくことが懸念される。今後も市が単独で行う各種扶助の経費について継続的に精査・見直しを図っていく必要がある。



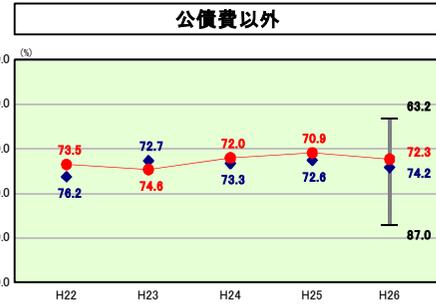
#### その他の分析欄

平成26年度決算は、対前年度比較では0.1ポイントの微減となった。その他に係る経常収支比率が類似団体平均を上回っているのは、繰出金の増加が主な要因である。少子高齢化による人口の減少や、高齢化率の割合が高いことから国民健康保険、後期高齢者医療、介護保険事業の特別会計に対する繰出金が年々増加傾向にある。特に、国民健康保険については、財源補てん的な繰出金が増加傾向にあることから、独立採算の原則に立ち一般会計に依存しない財政基盤の強化が必要である。



#### 公債費の分析欄

公債費については、過去に実施した都市基盤整備事業の元利償還金に加え、喫緊の課題である学校の耐震化事業の実施や、臨時財政対策債、減収補てん債などの特例的な地方債の借入により地方債現在高が増加した影響で、地方債の元利償還金が増らんでおり、公債費に係る経常収支比率は類似団体平均を2.9ポイント上回っている。さらに下水道事業の元利償還金に係るものなど公債費に類似の経費を合わせると、人口1人当たりの決算額は類似団体平均を1,225円上回っており、公債費の負担は非常に重いものになっている。今後も公債費は高止まりで推移することが予測され、今後の学校等の耐震化事業も含めて、将来に対する投資的な事業についても、緊急性や優先順位を十分検討し、市債の発行を抑制するとともに、償換えや耐用年数等を動員した償還期間の設定により、公債費の抑制や平準化を図っていく。



#### 公債費以外の分析欄

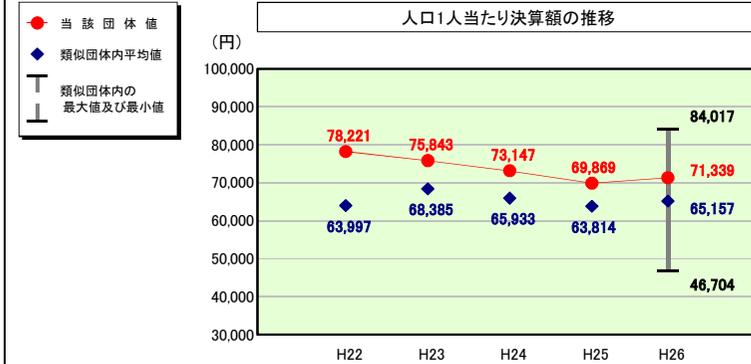
前述のとおり、人件費・その他が減少したものの、扶助費・物件費・補助費等が増加したことにより、公債費以外の比率としては対前年度比1.4ポイントの増加となった。公債費では、類似団体平均を上回る状況が続いているが、公債費以外では、平成23年度を除き、類似団体平均を下回っている。今後も類似団体平均と比較して高い水準のものは、継続的に精査・見直しを行い健全な財政運営を行っていく。

# (4)-2 市町村経常経費分析表(普通会計決算)

平成26年度

茨城県取手市

## 人件費及び人件費に準ずる費用の分析



### 人件費及び人件費に準ずる費用

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
人件費	6,918,719	63,272	58,961	7.3
賃金(物件費)	299,553	2,739	3,996	▲31.5
一部事務組合負担金(補助費等)	380,192	3,477	3,773	▲7.8
公営企業(法適)等に対する繰出し(補助費等)	-	-	594	-
公営企業(法適)等に対する繰出し(投資及び出資金・貸付金)	-	-	1	-
公営企業(法非適)等に対する繰出し(繰出金)	447,494	4,092	2,438	67.8
事業費支弁に係る職員の人件費(投資的経費)	435,781	3,985	1,435	177.7
▲退職金	▲680,913	▲6,227	▲6,041	3.1
合計	7,800,826	71,339	65,157	9.5

### 参考

	当該団体	類似団体平均	対比(差引)
人口1,000人当たり職員数(人)	6.93	6.38	0.55
ラスパイレス指数	97.5	99.2	▲1.7

## 公債費及び公債費に準ずる費用の分析

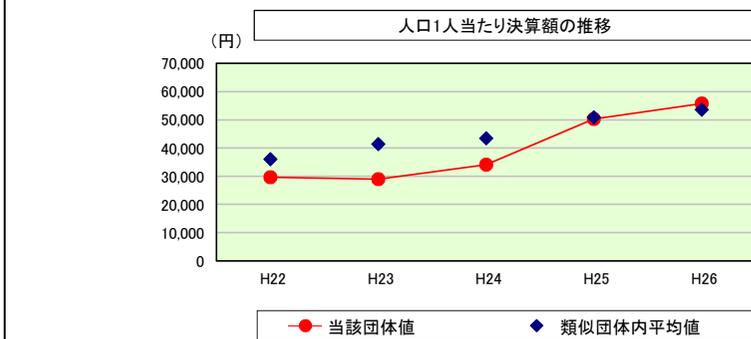


### 公債費及び公債費に準ずる費用(実質公債費比率の構成要素)

	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額		
		当該団体(円)	類似団体平均(円)	対比(%)
元利償還金の額 (繰上償還額等を除く)	4,285,554	39,192	38,103	2.9
積立不足額を考慮して算定した額	-	-	-	-
満期一括償還地方債の一年当たりの元金償還金に相当するもの (年度割相当額)	52,667	482	32	1,406.3
公営企業に要する経費の財源とする地方債の償還の財源に 充てたと認められる繰入金	-	-	9,772	-
一部事務組合等の起こした地方債に充てたと認められる 補助金又は負担金	1,503,321	13,748	1,367	905.7
公債費に準ずる債務負担行為に係るもの	35,916	328	888	▲63.1
一時借入金利息 (同一団体における会計間の現金運用に係る利子は除く)	886	8	2	300.0
▲特定財源の額	▲749,143	▲6,851	▲6,931	▲1.2
▲地方債に係る元利償還金及び準元利償還金に要する経費として 普通交付税の額の算定に用いる基準財政需要額に算入された額	▲3,717,419	▲33,996	▲31,548	7.8
合計	1,411,782	12,911	11,686	10.5

※平成27年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出してない団体については、グラフを表記しない。

## (参考) 普通建設事業費の分析



### 普通建設事業費

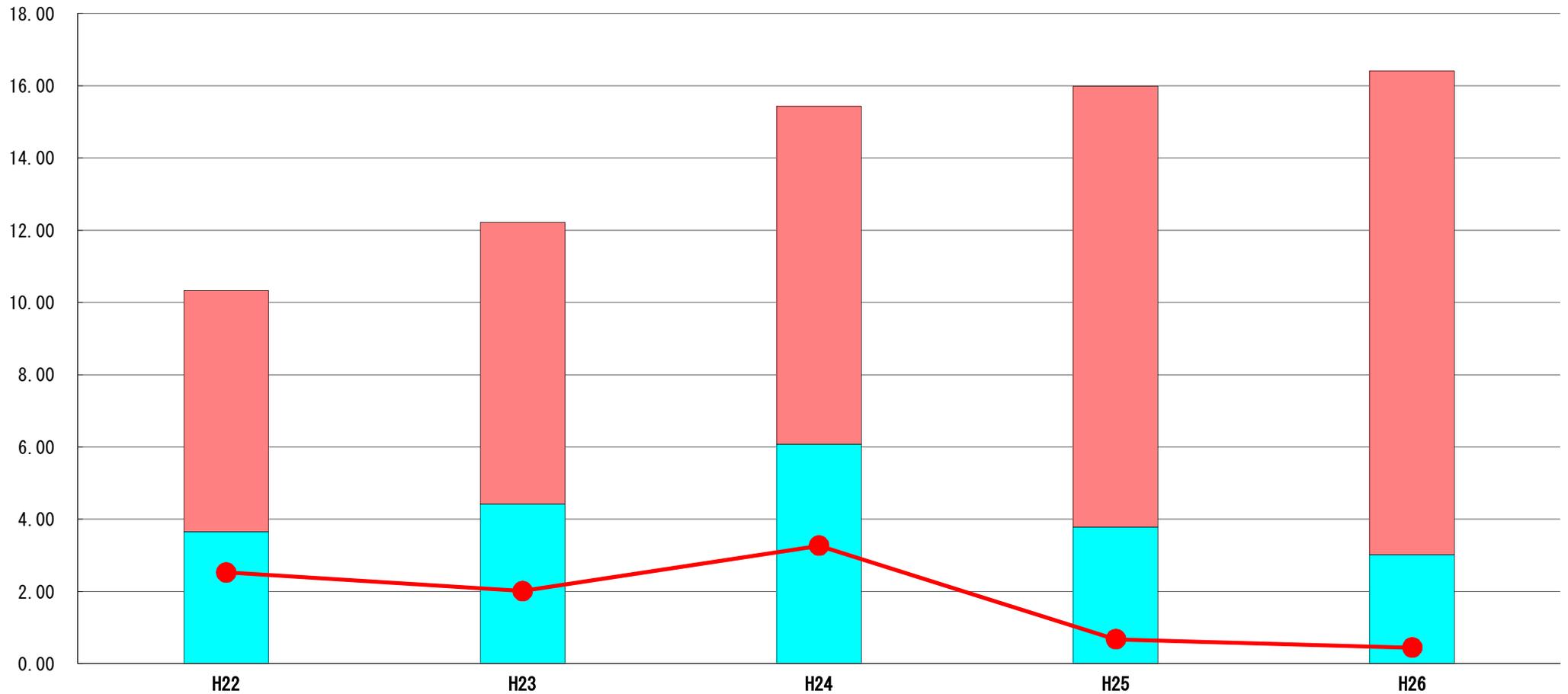
	当該団体決算額 (千円)	人口1人当たり決算額				
		当該団体(円)	増減率(%) (A)	類似団体平均(円)	増減率(%) (B)	(A)-(B)
H22	3,269,360	29,606	40.9	35,965	4.7	36.2
うち単独分	1,410,563	12,774	▲8.1	20,136	1.6	▲9.7
H23	3,169,852	28,972	▲2.1	41,433	15.2	▲17.3
うち単独分	1,451,370	13,265	3.8	22,351	11.0	▲7.2
H24	3,747,391	34,081	17.6	43,493	5.0	12.6
うち単独分	1,680,228	15,281	15.2	23,254	4.0	11.2
H25	5,514,741	50,319	47.6	50,840	16.9	30.7
うち単独分	1,899,841	17,335	13.4	25,367	9.1	4.3
H26	6,102,895	55,812	10.9	53,605	5.4	5.5
うち単独分	2,089,513	19,109	10.2	28,343	11.7	▲1.5
過去5年間平均	4,360,848	39,758	23.0	45,067	9.4	13.6
うち単独分	1,706,303	15,553	6.9	23,890	7.5	▲0.6

# (5) 実質収支比率等に係る経年分析（市町村）

平成26年度

茨城県取手市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

区分	年度	H22	H23	H24	H25	H26
 財政調整基金残高		6.68	7.79	9.35	12.19	13.39
 実質収支額		3.65	4.42	6.08	3.79	3.02
 実質単年度収支		2.53	2.02	3.27	0.68	0.45

## 分析欄

実質収支比率は、近年は3～4%台で推移している。平成26年度は、前年度と比較して0.77ポイント減少して3.02%となった。これは、分母となる標準財政規模が微増(+24百万円、+0.1%)となったこと、分子となる実質収支が171百万円の減となったことによる。実質収支の減の要因としては、平成27年度への繰越事業となった都市計画道路3・4・3号線整備事業等により翌年度に繰り越す財源が116百万円の増となったこと、歳入歳出差引額が56百万円の減となったことである。

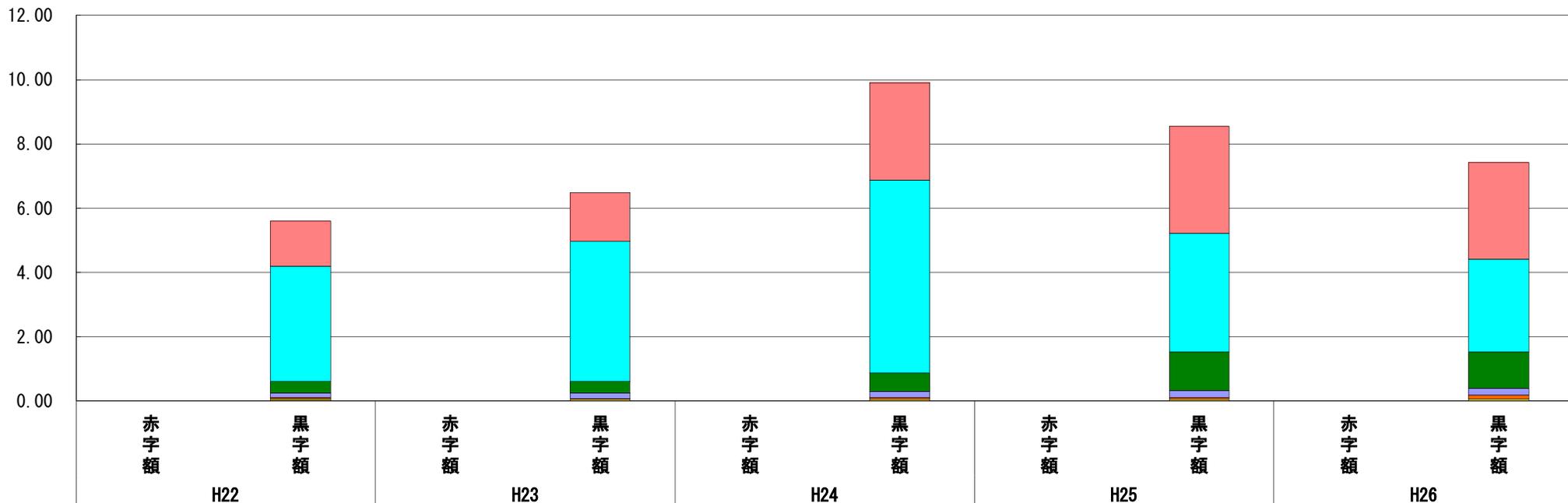
また、財政調整基金残高比率については、平成20年秋以降の世界的な経済金融危機の影響による法人市民税の大幅な減収に伴い、財源手当てとして財政調整基金を取り崩したため、平成21年度には一時4.34%まで大きく減少した。その後、法人市民税の若干の回復や震災復興特別交付税による財源手当てなどで持ち直し、平成26年度についても、平成25年度の繰越金などにより積立額が増加し、13.39%まで改善した。今後も、将来の蓄えとして積立額の更なる増に努める。

# (6) 連結実質赤字比率に係る赤字・黒字の構成分析（市町村）

平成26年度

茨城県取手市

標準財政規模比（%）



標準財政規模比（%）

会計	年度	H22	H23	H24	H25	H26
取手市国民健康保険事業特別会計		1.40	1.50	3.02	3.31	3.01
一般会計		3.60	4.37	6.01	3.71	2.89
取手市介護保険特別会計		0.36	0.37	0.57	1.19	1.14
取手市競輪事業特別会計		0.14	0.16	0.19	0.22	0.20
取手市取手駅西口都市整備事業特別会計		0.04	0.04	0.06	0.07	0.12
取手市後期高齢者医療特別会計		0.05	0.04	0.05	0.04	0.06
取手市介護サービス特別会計		0.01	0.00	0.00	0.00	0.00
取手地方公平委員会特別会計		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00
その他会計（赤字）		-	-	-	-	-
その他会計（黒字）		0.00	0.00	0.00	0.00	0.00

## 分析欄

一般会計及び特別会計を含めた連結赤字比率の合計については黒字であり、平成26年度の比率は黒字7.44%である。  
国民健康保険事業特別会計については、平成21年度までは赤字であったが、平成22年度より黒字に転じている。平成22年度以降、すべての会計が黒字になっており、財政の健全化が保持されている。

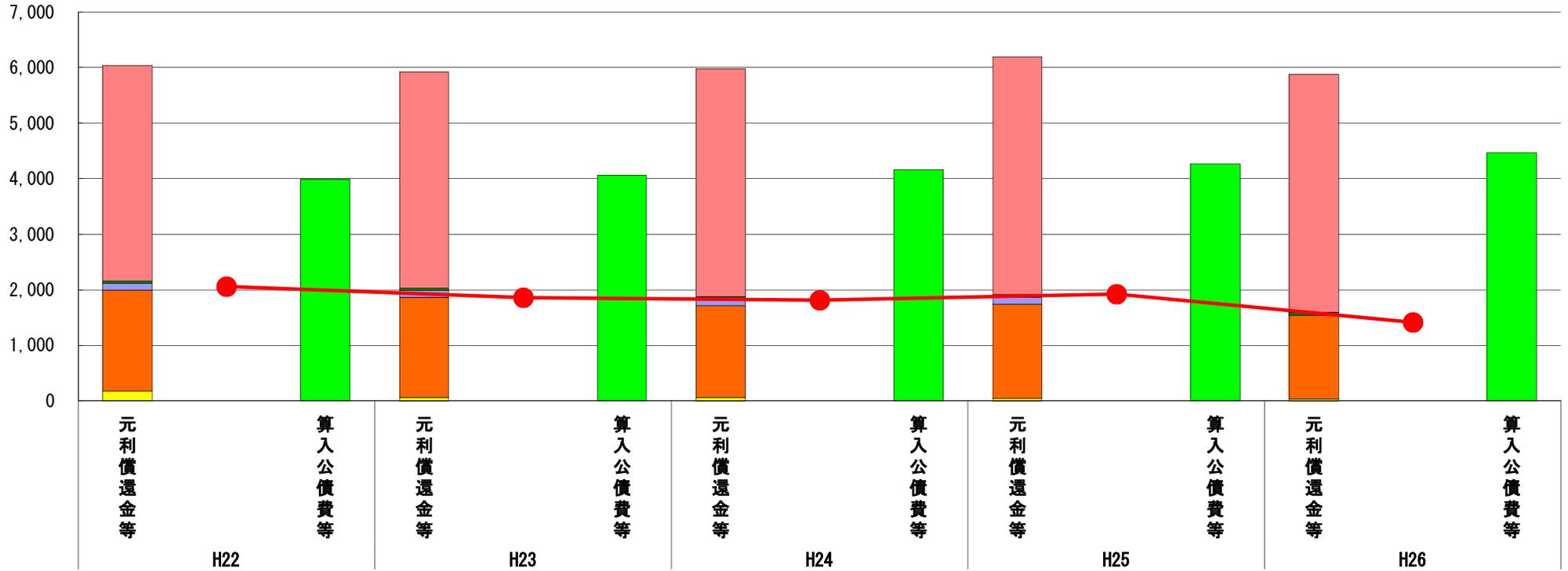
※平成27年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく連結実質赤字比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

# (7) 実質公債費比率（分子）の構造（市町村）

平成26年度

茨城県取手市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H22	H23	H24	H25	H26
元利償還金等(A)	元利償還金		3,883	3,886	4,090	4,278	4,286
	減債基金積立不足算定額		-	-	-	-	-
	満期一括償還地方債に係る年度割相当額		38	43	49	53	53
	公営企業債の元利償還金に対する繰入金		126	123	120	120	-
	組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等		1,813	1,804	1,651	1,691	1,503
	債務負担行為に基づく支出額		176	59	59	48	36
	一時借入金の利子		4	1	2	1	1
算入公債費等(B)	算入公債費等		3,982	4,058	4,155	4,266	4,467
(A) - (B)	実質公債費比率の分子		2,058	1,858	1,816	1,925	1,412

## 分析欄

元利償還金等(A)について、平成25年度と比較すると312百万円の減になっている。これは、公営企業債の元利償還金に対する繰入金が、準公営企業債の償還終了により120百万円減となったことや、組合等が起こした地方債の元利償還金に対する負担金等について、取手地方広域下水道組合への負担金などの減により188百万円減となっていることが主な要因である。

一方、算入公債費等(B)については、平成25年度と比較すると201百万円の増になっている。これは、臨時財政対策債等の償還額の増に伴い災害復旧等に係る基準財政需要額が209百万円増になったことなどが要因である。

元利償還金等(A)の合計が312百万円減少しているとともに、そこから差し引くことのできる算入公債費等(B)も201百万円増加しているため、実質公債費比率の分子としては513百万円の減となった。

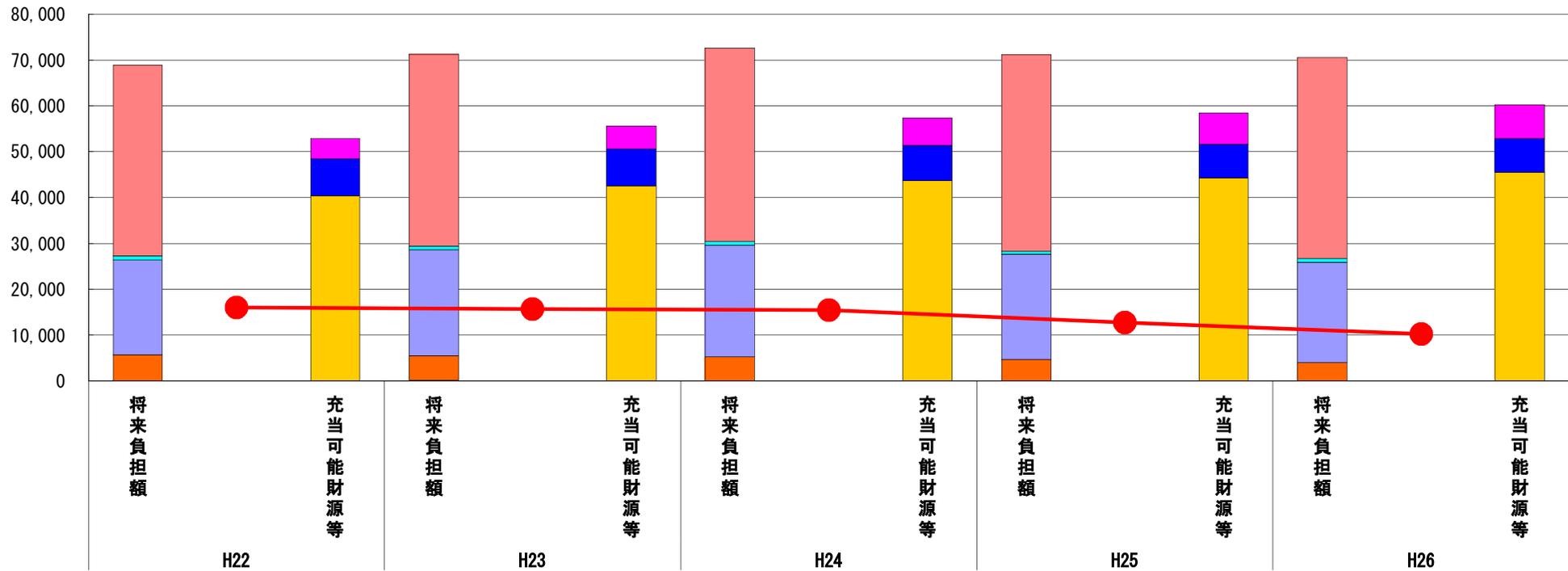
※平成27年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく実質公債費比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。

## (8) 将来負担比率（分子）の構造（市町村）

平成26年度

茨城県取手市

(百万円)



(百万円)

分子の構造		年度	H22	H23	H24	H25	H26
将来負担額(A)	一般会計等に係る地方債の現在高		41,619	41,783	42,284	42,849	43,910
	債務負担行為に基づく支出予定額		927	866	807	758	720
	公営企業債等繰入見込額		-	-	-	-	-
	組合等負担等見込額		20,664	23,158	24,381	22,858	21,906
	退職手当負担見込額		5,650	5,344	5,150	4,647	3,970
	設立法人等の負債額等負担見込額		29	57	29	32	20
	連結実質赤字額		-	-	-	-	-
	組合等連結実質赤字額負担見込額		-	-	-	-	-
充当可能財源等(B)	充当可能基金		4,492	4,999	5,923	6,828	7,434
	充当可能特定歳入		8,002	7,986	7,713	7,447	7,383
	基準財政需要額算入見込額		40,421	42,589	43,618	44,194	45,453
(A) - (B)	将来負担比率の分子		15,974	15,634	15,398	12,676	10,255

### 分析欄

将来負担額(A)について、平成25年度と比較すると618百万円の減になっている。これは、一般会計等に係る地方債の現在高が合併特例債や臨時財政対策債などの発行により増加(対前年度比較で1,061百万円増)したものの、取手地方広域下水道組合等への組合等負担等見込額が減少(対前年度比較で952百万円減)したことや、退職手当負担見込額が減少(対前年度比較で677百万円減)したことが主な要因である。

一方、充当可能財源等(B)については、平成25年度と比較すると1,801百万円の増になっている。これは、基準財政需要額算入見込額が、臨時財政対策債や合併特例債等の算入により増加(対前年度比較で1,259百万円増)していることや、充当可能基金が財政調整基金等の積み増しなどにより増加(対前年度比較で606百万円増)したことが主な要因である。

将来負担額(A)の合計が618百万円減少し、そこから差し引くことのできる充当可能財源(B)の合計が1,801百万円増加したため、将来負担比率の分子としては、対前年度比で2,421百万円の減少となった。

※平成27年度中に市町村合併した団体で、合併前の団体ごとの決算に基づく将来負担比率を算出していない団体については、グラフを表記しない。